

サビエル生誕五百年



宇久島の謎(上)

上五島・長崎巡礼③

今回、佐世保からフェリーで上五島の中通島(なかとおりじま)に向かう際、客室には入らずデッキで過ごした。

今から三百年以上前の江戸時代中期、厳しいキリシタン迫害の時、約三千人のキリシタンは信仰を守るため長崎から海を渡り、未開の五島列島に移り住んだ。

どこからそんなにも強い信仰心が生まれたのだろうか。目に見えない神を信じ、踏み絵を踏まされる苦しみから逃れ、家を捨てて遠い離島に渡った人たちのことを思うと、客室の畳の上に寝て行く気持ちにはなれず、当ても碧(あお)かったであろう同じ海を飽きることなく眺め続けたのである。

前回、新聞社の協力を得て五島列島の下りやすい地図で、中通

若松・奈留(なる)・久賀(ひさか)・福江の五つの大きな島が五島列島の名称の由来であることを書いた。

ところが昭和四十四年発行の広辞苑には「久賀島」ではなく「宇久島(うくじま)」とある。そして平成八年発行の広辞苑では「後に宇久島に代えて久賀島」とある。

地形上から見れば宇久島は五島列島の最北端にあり、列島の一部というのが自然なのに、なぜ宇久島を外し久賀島に変更したのだろうか。

五島列島は広辞苑にも明記してあるように漁業が盛んで、キリシタンが潜んだ地として有名である。今回訪れた新上五島町にも二十九の教会がある。

以前、長崎の教会について調べた時、一つ不思議に思ったことがある。宇久島は長崎教区の地区割り(教会独自の地区割り)では上五島地区の中にある。しかし宇久島には教会は一つも存在しないのである。

このことが五島列島にある宇久島、小値賀島(おぢかじま)、野崎島には、野崎島のように今は無人島であった野首教会は小値賀町の文化財として島にはあるが実際には使用されていないようなものはあ



五島列島の島々―列島の最北端に宇久島がある

んどがキリシタンで、長崎での踏み絵などの取り調べでは踏み絵を踏んで、キリシタンではないように装いながらも信仰を守り続けていた。

彼らは離島に行けばもつと安心して信仰生活ができると思って志願したのではないだろうか。結果として五島には大勢のキリシタンが住むようになった。

ただし、当時、宇久島は平戸藩の支配下にあり、移住は行われなかった。その影響で宇久島には教会がないの

ではないだろうか。長崎県は地形上は宇久島は五島列島だが、過去の廃藩置県などの歴史的経緯から五島列島ではなく平戸諸島の一部とし、五の島が列島の名前の由来のため、久賀島を加えた。広辞苑もそれに従い記載を変更したというのが私の推測である。

いずれにせよフェリーから見る五島灘の碧海は当時のキリシタンを思い起こさせ、胸が熱くなった。

(元山口放送取締役ラジオ局長)



フェリーではほとんどの人は畳の客室で寝ている